

横須賀市議会議員

おばたさおりの

# おばちゃん通信

つつしん



発行：おばたさおり

横須賀市池上2-14-10 田中ビル01号

TEL：080-1161-4031

誰もが

暮らしやすい  
まちへ。

よこすか  
未来会議

## にんしんSOSカードの配架

横須賀市では、思いがけない妊娠で悩んでいる方の相談先として、「横須賀にんしんSOS」(tel:046-820-2323)があります。また、その周知のために、相談先の書かれた「横須賀にんしんSOSカード」を作成し、商業施設や公共施設などに配架しています。必要な方に情報が届くためには、このカードをどこに配架するのが大切な視点です。

思いがけない妊娠で悩む方として想定されるのは、若年層です。これまでもカードの配架場所について議会で様々な議論が交わされてきたのですが、2023年、このカードを担当していることも家庭支援センターに、「学生に情報が届くように、学校のトイレなどに置くことについて、教育委員会と検討したのか」と問うたところ、教育現場としては「(カードを置くことは)かえって児童・生徒に性交渉等といったものを勧めるというか、不適切である」と考えている、との答えでした。本来であれば、「包括的性教育」を子どもたちが受ける環境があれば、そのような懸念は出てこないでしょう。しかし性教育については、学習指導要領では、「妊娠の経過(性交)については取り扱わない」となっており、これはいわゆる「はどめ規定」と呼ばれています。こうした「はどめ規定」の存在から包括的

### 「妊娠SOSかながわ」もあります！



神奈川県では、LINEを利用した相談も行っています。思いがけない妊娠等に関するLINE相談は、まずは左の2次元コードからLINEの「友だち追加」を！

ご存知  
ですか？

◀にんしんSOS  
カード



性教育が進まなかった結果、予期せぬ妊娠をしてしまう方々に必要なのは、相談先です。その相談先の一つとしてにんしんSOSにたどり着いてもらうためにも、にんしんSOSカードを学校に置くことは有効です。

今回教育委員会側ににんしんSOSカードの配架について、教育現場での考えの変化があったのか問うたところ、「女性の不安、悩みを軽減していくことやジェンダー平等への理解が少しずつ進んできたことを踏まえ、にんしんSOSカードを各中学校・高等学校に配架することにした」との答え。これまでの議論の経過を考えると、これは大きな一歩です。「子どもたちを性暴力の被害者にも加害者にもさせないための教育活動を行ってきており、カードの配架も含めて相談しやすい関係づくり、体制や環境づくりが必要だと判断した」とのことです。カードを日頃より目にする場所に置いてあることで、もし思いがけない妊娠をしてしまった際に相談先にたどり着ける可能性が高まります。学校のどこの場所に配架するのも、しっかり考えていただきたいと思います。



# 学童保育の“待機児童”はゼロになるのか？



放課後等児童クラブ(学童クラブ)の待機児童対策として、待機児童の発生が見込まれる衣笠小、公郷小、山崎小、神明小、野比小学校区において、令和6年4月1日から新たに民設で学童クラブを開所する事業者への補助金が補正予算として計上されました。過去数年は子どもの数は減っているものの、学童の利用者数は増加しており、令和5年4月時点で学童クラブに入れなかった児童が50名いました。これは働く保護者にとって非常に大きな課題です。本市では学童クラブのほとんどが民設であり、保育園のように、利用申し込みを一斉に行うわけではないため、学童クラブの利用ニーズの全体像がつかみづらいようです。

また、市は今後児童数の減少がわかっている中で、学童クラブ利用者数の見込みが立てづらいとのこと。しかしどのような放課後の居場所が求められているのか、それがそれぞれのエリアにどれくらい人数がいるのかをしっかりと把握していかなければ、困る家庭が出てきてしまいます。待機児童はゼロでなければいけないと考えています。

今後全小学校に、親の就労状況に関わらず利用できる「放課後子ども教室」も設置されていきます。子どもたちが安心安全な放課後を過ごすことができ、保護者が就労することができる環境を確実に整備していくために、市はしっかりと実態把握を進めてほしいと思います。



## 聴覚障害者の情報保障

昨年の代表質問において、聴覚障害の方への情報保障について質問しました。その際に、「筆談ボードでやり取りするよりも、音声を文字化する機器を使ったほうが情報量も多く、コミュニケーションの幅が広がる。総合福祉会館など、聴覚障害者が利用する頻度が高いところから、災害時や緊急時にも活用できるような機器の導入について検討していく」と、市長から答弁がありました。災害はいつ起こるかわからない中でこの機器の導入についての検討状況について委員会で質問したところ、「タブレット

を使ったアプリの利用での情報伝達を検討している」との答え。災害時には総合福祉会館に設置した大型モニターに文字情報を流すこと、タブレットを移動して情報を必要とする方の近くで寄り添っていきたいと考えているようです。大型モニターについては現状設置されていませんが、設置を検討しているようです。聴覚障害の方は音声情報を得ることができません。非常時は一刻も早く避難が必要なこともあります。そうした時のために、市には情報伝達できる整備を一刻も早く進めていただきたいです。



## 若者の政治参画～若者政策の推進

私の所属する会派よこすか未来会議は、「若者政策の推進」を掲げています。子どもや若者の意見を施策に反映させるために、市長の附属機関としての「若者会議」の設置などを求めています。今年度の議員研修会のテーマとして、「若者政策の推進」をあげ、日本福祉大学の両角達平先生を提案し、研修会が行われました。両角先生は若者の社会参画やヨーロッパ(特にスウェーデン)の若者政策などを研究しています。若者が政治

参画する意義、日本の若者の政治参画が進んでいない原因、若者の政治参画を進めるためにはどうしたら良いのか、といった内容でご講義いただきました。「子どもの声を聴く」ことについては大事だと言われるようになってきましたが、大人側が設定した場で子ども、若者の意見を「ただ聞くだけ」、にならないよう、若者らが主体的に社会参画し、影響力を発揮できる環境を作っていくことが必要です。横須賀における若者政策の推進について、今後も会派として取り組んでいきたいと思っています。

インタビューにご興味ある方はお問い合わせください。またご意見・質問などは下記連絡先へ。

**小幡沙央里**  
おばたさおり

プロフィール

1985年10月3日生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。  
UCLA政治学部卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。  
2015年横須賀市議会議員選挙にて初当選。現在3期目で、第98代副議長。

連絡先

移動事務所



080-1161-4031



info@obatasaoiri.com

